

進路選択をめぐる議論の要約

この2時間40分ほどの模擬ゼミには、15名の高校生と2名の高校教師、そして1名の九州大学学部生（理学部3年）と2名の大学院生（理学府修士課程2年と生物資源環境科学府修士課程1年）と1名の九州大学文学部卒業生が参加し、渡辺哲司（九州大学高等教育開発推進センター）がゼミ担当者の役割をとりました。

※以下において、発言者を次のように表記します。

高校生：生徒　高校教師：教諭　九州大学学部生と大学院生：学生

ゼミ担当者：渡辺

▼ 模擬ゼミの狙い 「研究」について

渡辺 今日、私が九州大学の全学教育科目で担当している少人数ゼミを模擬して進めていこうと思っています。高校でも少人数の学習や討論をすることがあると思います。では、大学の少人数ゼミと高校の少人数学習の違いは何だろうと考えました。いくつかあると思いますが、今回は、大学の少人数ゼミは「研究」である点が高校の少人数学習と違っているということで、模擬ゼミをファシリテイトしていこうと思います。

そこで、最初に「研究」について、お話します。日頃から、私たちは互いに話し合っているわけですが、そういう話し合いと大学で行われているゼミとの違いを「研究」という視点で確かめることによって、高校生の皆さんに、大学での学びについて、いくらかなりとも知ってもらえたらと思っています。そして、「研究」のテーマが、〈高校時代の進路選択・その理由〉というわけです。

九州大学は日本に七百ほどある大学の中で数少ない研究大学と言われている大学の1つです。大学の使命は教育と研究と社会貢献の3本柱だと言われていることから、研究大学というのは、研究を基にして、その成果を教育や社会的貢献に還元する大学と言えるかと思っています。皆さんそれぞれが「研究」についてのイメージをもっていることと思いますが、この模擬ゼミの担当者として、私が考える「研究」について、お話します。

「研究」という活動は、流れとして、不思議や疑問から出発します。「なぜ？」とか、「どうしてだろう？」とかが不思議や疑問です。そして、「こうなっているのは、おそろく…」と、仮の説明をしてみます。これが、仮説です。日頃の私たちは、仮説に賛成する人が大勢いると、仮説であったものが、本当（事実）であるかのように思えてきます。仮説に相槌をうつ人がいないと、皆は本当のことが分かっていないと悲しくなったりもします。仮説にとどまっていると言えるかもしれません。

「研究」は、仮説がどれくらい本当や事実に近いかを検証する活動です。科学的な態度として、とても大切なことなので強調しておきますが、仮説が事実であるか事実でないかではなくて、事実にどれくらい近いかを検証するのです。仮説を検証するときに、調査や

観察や実験を行います。そして、これらの検証の方法と結果と考察を、学会で発表したり研究誌に投稿したりして議論します。妥当性があるか、信頼性があるかといった議論を経て、仮説が的を射ている（らしい）という合意がえられると、ようやく、仮説が知識としての証をえることとなります。知識は、いわゆる教科書に載っている事柄ですから、皆さんは小学校に入った時からずっと検証を経た仮説を知識として学んでいきているのです。

高校までの学習では、知識より前の不思議や疑問から出発して合意が形成されるまでのところは、それほど丁寧にやっていません。「研究」というのは、不思議や疑問から合意までの活動のことです。大学の卒業「研究」では、不思議や疑問から合意までを、ある程度までですが、やり通すこととなります。仮説を検証して、どこまでが確からしいと言えるかは、他者に話してみる、そして、疑問をめぐって議論し、仮説が通用する要件を整理することによって、はっきりしてきます。研究大学での学びとして重視されているのは、「研究」活動という知識を獲得するプロセスを自ら体験することだと考えます。

少人数で双方向型のゼミは、大学教育のなかで、次第にその存在意義が大きくなってきています。最近では、入学初年次のカリキュラムに、少人数ゼミの授業が設けられるようになりました。議論の相手が先生だからとか、先輩だからとか、あるいは、自分は知識が不足しているからと身を引くのは「研究」活動につながらないのです。知識がないからこそ、先生や先輩があたりまえだと片づけてしまっている知識に疑問を抱くことができます。先生や先輩は、学生が抱く素朴な疑問に示唆をえて、常識を検証する「研究」に着手するということがあります。

知識には、「研究」によって、生み出されるという面があります。いや、人類の知恵のような「研究」によらない知識もあると思うかもしれません。「研究」というのは、大学の研究室や企業の研究開発部のような場所で行われるだけではありません。人類の知恵の根っこは、不思議や疑問だと思えます。ですから、今日ここでの議論も、不思議や疑問をめぐるものであれば、「研究」活動の何であるかを垣間見るきっかけになると考えています。

この模擬ゼミでは、日頃の私たちが、「あたりまえ」「賛成」「私も同じ考えです」「それが常識」などと、片づけてしまっており、あえて不思議や疑問を抱こうとしない進路選択をめぐる事柄について、議論していただけたらいいなと思っています。

「研究」となると、不思議や疑問を向ける資料が必要です。そこで、進路選択をめぐって高校生の皆さんが書いたレポートを、この模擬ゼミの資料にすることにしました。資料を作成してくださった高校生の皆さんに、感謝します。

※ 以下の議論の要約は模擬ゼミの担当者の発言を可能なかぎり省略して作成しています。

▼ **疑問1** 大学進学は「あたりまえだ」という意識は、不思議に思える。

▼ **疑問2** 大学と資格は、関係があるのかないのか。

生徒 最初のレポートに『大学に進学するのがあたりまえという意識がある』と書いてあるのは、私には不思議なことです。私は、あたりまえだから大学に進学しようと思っているわ

けではなくて、何があるかわからないけど、その何かを知りたいと思っています。

生徒 大学に進学すると資格を持つので、社会的に有利になるのではないのでしょうか。

学生 大学卒業という肩書きは資格とはちがうよね。僕も、高校生の頃は、大学を卒業すると、医学部や歯学部や薬学部のように、それぞれの学部にあふさわしい専門的な資格がえられるはずだと、漠然とだけど、でも強く思っていた。だから、「何々学部を卒業するとどんな資格がえられますか」と尋ねる高校生のことがよくわかる。資格について尋ねないとしても、ある学部・学科を卒業すると、どんなところに就職できるのかを具体的に知りたいと、高校生は思っている。資格や就職はどうでもいいから、大学では好きな分野の研究をしようと思って進学する高校生は少数派だと思う。ただ、高卒でなく、大卒だと、社会的に有利になるということが絶対にあると思う。

生徒 親からは、大学卒が高校卒より有利だと聞かされています。

教諭 大学を出れば、社会的に有利になると指導しているわけではないのです。ただ、高卒の求人状況が極端に狭くなっている現実があります。高卒者の求人は一般職が中心ですが、その一般職の求人が、今はほとんどない状況です。求人の多い総合職は、大学を卒業していないとエントリーができないのです。総合職にエントリーする資格が大卒だというのが現実かもしれません。生徒に、一般職と総合職の違いについて説明しようとする、意外と難しいので、大卒が有利という言い方になるように思えます。一般職の求人に入力できるのは、以前から、だいたい短大・高校・専門学校の卒業生でした。営業は総合職ですが、事務職や販売職など、簡単に言えば、社長になれないのが一般職です。景気が悪くなって、高卒者に向けられていた事務職のような一般職の求人が、専門学校や短大の卒業生と大卒の女子に向けられるようになりました。総合職は、転勤もそうですが部署の異動もあり、何でもしなくてはならないのです。

生徒 親が、大学に進学しないと不利になると言うのも、そういうことを考えているからだと思えます。

学生 進学校だったりすると、周りのクラスメイトのほとんどが大学進学を志望しているから、大学進学以外の選択肢については考えないということもある。僕はそうだった。まず大学に進学するという前提があって、では、何処に行こうかなと考える。このとき、やがて就職するとは思っていても、一般職と総合職、エントリー資格とかについては思いもしない。

生徒 僕は、大学進学はあたりまえの意識と書いた人は、すごく正直だなあと思いました。あたりまえのことだからと言うと、ちゃんと目的をもっていなければ駄目だと言われるのです。だから、僕だったら、「臨床心理士になるための勉強をしたいから大学に行く」というようなことを書きます。『あたりまえの意識』と書いたのは、なぜだろうと、不思議に思うのです。

渡辺 このレポートが、仮にAO入試の志望理由書だとしましょうか。

生徒 僕が試験監督だったら、一次審査で落としそうな気がするんですけど。

生徒 このレポートは、皆で議論するために書かれから、思ったことをストレートに書いてるのだと思います。志望理由書には、ホンネのことは書けないから。

学生 でもですね、大学進学だけではないと思えるけど、あたりまえだからということで大学に入学したら、その後、何を考えて生きていくのだろうか心配になる。余計なお世話か

な。大学のゼミで、あたりまえだからと言うと、思考停止と同じになってしまう。せっかく前半で心理学のことが書いているので、これを膨らましたりすると、あたりまえで片づけられない何かがあるはずだと思う。

▼ **疑問3** 大学での学びは、目的の実現につながるのか。

▼ **疑問4** 専門学校と大学の違いは何なのか。

生徒 あたりまえだからという意識でなく、ちゃんとした目的意識があって大学に進学すると、目的に向かって勉強ができるのでしょうか。たとえば、私の知り合いに救命救急士になりたいと言って救急救命士の学校に行った人がいます。でも、今、やってるのが、救急救命士のことかかという、そうじゃなくて、テレアポの時給千円のバイトをしています。そして、僕は「新しい道を探す」なんて言いだしています。

生徒 大学進学は『あたりまえ』と書くことで、何かに縛られているという感じを伝えたかったようにも思います。お兄さんが大学に進学したから、次は私もと…。

生徒 大学に進学するための勉強が苦痛だと縛られている感じがするのかもしれませんが、大学進学が苦痛でなかったら、縛られている感じ、窮屈な感じはないのではないのでしょうか。

生徒 私も、親に「大学に進学しないと、職はないぞ」と脅かされています。私は、あんまり勉強が好きじゃないので、大学進学に縛られていると感じます。

学生 大学進学が、あたりまえだと思うことと、縛られていると思うことは、受験勉強が好きか嫌いかということに、関係しているのですかね。

生徒 このレポートを書いた人は、大学に進学する必要性のようなものを、兄や父を見て学んでいるんじゃないのでしょうか。

学生 たとえば、自分が勉強する時に、論文読んだりするのだけど、その論文が参考にしていく資料が、九州大学の図書館に行くと大体ある。だから、何かを探究しようとして、より深く知ろうとして勉強する環境が整っているというだけでも、大学に進学する意義はあると思う。

学生 大学生であるというのは資格でなく身分だと思う。大学生でいると、いろんな人に会える。大学生だというだけで、受け入れてもらえることが多い。たぶん、フリーターだと言って会いに行くよりは。いろんな人というのは、たとえば、政治家だったり、社長だったり、あるいは文化人だったり。大学の授業では、高校生が思っているほど難しいことをやっているわけではなく、自分の世界観の狭さとか知識の少なさを気づかせてくれる刺激として授業は面白いのかもしれない。

生徒 大学生になると、いろんな人と会えるということですが、たぶん、誰と会うかは、自分の目的と関係してくると思うのですが。その目的をどうして見つけたのかについて教えてもらえるのでしょうか。

学生 専門領域が定まってから、つまり、目的がはっきりしてきてから、出遭う人たちが限られてきたのが気になる。人生の先達と会って話を聞くなかで智慧のようなものを知りたいという思いで、いろんな人と会っていた頃は、そこから多くのことを学んでいたような気がする。つい、このあいだのことだけど、なんだか、なつかしいような気がする。目的が

はっきりするというのは、見聞しようと思う世界が狭まることかもしれない。先ほど専門学校に進学した知り合いの話ができましたが、九州大学のような総合大学とちがって、専門学校に進学するということは、学ぶ目的を絞るということで、だから、目的に関係のないところに、面白いことを見つけるのは、若者として、僕もまだ若者だけど、あたりまえだと思う。

▼ **疑問5 文系と理系とで、勉強のハードさが違うのか。**

▼ **疑問6 「良い」大学とは、どういう大学か。**

生徒 目的意識の大切さは、学部とか学科によってちがうのではないのでしょうか。理系だったら研究、研究の毎日になのではないのでしょうか。

学生 文系とか理系とかで判断するのはまずいですよ。

学生 文系でも死ぬ気で勉強するところは勉強しますよ。「夏休みにどこにも行っていないなあ」という研究室もあります。文系でも3日間缶詰で学校に泊まりっぱなしというパターンもあって、平日でも講義の後、ダッシュで研究室戻って論文を漁ってという生活をしている学生は結構います。

学生 理系でも、ゆるゆるの所はゆるゆるだし。学生が週休五日制だとか言っている所もある。

生徒 そういえば、受験勉強もそうですね。文系志望とか理系志望とかに関係なく、勉強する人は勉強しているし、遊んでいる人は遊んでいる。

学生 研究漬けになるかならないかは、大学入ってからの選択肢ですよ。研究漬けになりたくなかったら、週休五日とか、4年の11月から卒業論文を作り始める研究室もあるので、そういう所に行けばいい。これを学ぼうというものが見つかったら、そのことをやっている研究室が忙しいかどうかは、たいした問題じゃなくなる。

生徒 その研究室で勉強しなくてはいけなから忙しいのと、自分のやりたいことを勉強したいから、それこそ図書館こもったりして忙しいのとは、違う忙しさのように思います。先輩方に尋ねたいのは、受験勉強ですが、勉強が好きでない場合のことです。勉強が好きでないけど大学に進学した人って多いですか。

学生 よくわからないけど、これ以上は勉強したくないから大学に進学するのは嫌だと思ってしまうのは、勘違いというか、大学についての幻想に囚われていると思う。今の大学は、入るのはともかく、出るのはすごく簡単だから。こう言うと、大学に入りさえしたら遊んでいてもいいかのように伝わるかもしれないから、ちょっと説明を加えると…勉強したくないのなら、勉強せずに生きていく努力をしなきゃならない。勉強しない努力を。僕の個人的な考えだけど、九州大学のような大学で勉強しない努力を続けると、受験のための学力とちがう力、何と言っていいかわからないけど、物事を深く考える力がつくように思う。そう言い切っていいかどうか、確信はないけど。

生徒 よく聞くのですが、日本の大学って、入るのがすごく難しいじゃないですか。すごく難しいけど、先輩が言われたみたいに、出るのは簡単。でも外国の大学って、それなりに入るのは難しいけれども、入るのよりも出るのがはるかに難しい大学が多い。その違いは何ですか。話がとんでしまって、すみません。

学生 僕も高校生の頃は、「外国の大学は」というような大雑把な捉え方をしていたのだけど、大学で学んでいるうちに、いつの間にか、「外国」とはどの国のことか、「大学」とはどんな大学のことかと、思考の前提を捉え直すようになった。そうすると、入るのが易しくて出るのが難しい「外国」の「大学」を具体的に特定できないことがわかってきた。

もう一方で、こんなこともある。九大の学生だと塾の講師のアルバイトがあるので、僕は受験生の学習指導をしながら考えさせられてきているのだけど、大学へ進学したいと思っている高校生の数は日本の大学の学生定員の数よりも少なくなったのに、受験勉強が大変なままだということがある。なぜかというと、できるだけ、「良い」大学に合格したいという願いがあるからだと思う。大学とはどういう所かがはっきりしていないのに、「良い」を目指しているのだから、きっと偏差値が高い大学が「良い」大学にちがいないということになってしまう。

学歴偏重が問題になっていない「外国」の「大学」の場合と、学歴偏重が問題だと言われながらも、相変わらず「良い」大学であるかどうかを偏差値序列で判断している日本の大学とを比較するのは、入るのが難しいか易しいか、出るのが難しいか易しいかを議論する以前のことだと思う。ごめんなさい。せっかくの質問が、質問になっていないというような言い方になってしまって。僕は、進学校と言われている高校の出身だけど、高校時代に僕自身が考えていた「良い」大学って何だったのだろうと、今、考えているということ。

生徒 はい。私が質問したのも、たぶん同じような疑問があったからだと思います。

学生 文系か理系の話に、ちょっと戻るのだけど、理系だと、大学に用意されている椅子の数が足りないという事情があるように思う。理系だと入学した学生の数に見合う実験室や研究設備を用意しておかなくてはならない。細かい話になるけど、たとえば、実験である試薬を使うとしても、試薬の中にはとても高価なものがある。エンジンの燃焼実験をしてみると、何個ものエンジンを取り揃えるわけにいかない…とか。文系は、学生が増えて講義室が溢れるなら、講義のコマ数を増やすとかして理系よりも対応が容易だと思う。大学進学希望者の数が大学の学生定員数を下回るようになったけど、理系学部の学生定員数は理系志望者の数と比較してどうなのか…これは調べてみないとわからない。いずれにせよ、僕らが関与できない問題として大学の経営ということがありそうだと思う。

ちょっと議論の流れからはずれるかもしれないと思うけど、文系か理系かの話に戻りたかったのは、大学で学んでいるうちに僕が思うようになったことがあって、高校生にメッセージとして伝えておきたいことがあったから。伝えたいことは、どうしても個人的な思いになるのだけど、文系・理系という分け方は、奇妙だと思う。なぜなら、僕ら一人ひとりの生き方は、文系人間とか理系人間とかで分けられるようなものではないから。にもかかわらず、たかが大学の入試科目によって、人間を類型化していいのだろうか、最近、疑問に思っているのです。それこそ「外国」では、文系人間とか理系人間とか一人ひとりの個性を分けているのかどうかを知りたいと思う。

- ▼ **疑問7** 大学で行われている研究を、高校生がどこまで想像できるか。
- ▼ **疑問8** 教育と研究はつながっているのか。

渡辺 話が大学経営になって、高校生の進路選択の実感から遠ざかってきたようなので、ちょっと方向修正をします。ただ、日本の大学の教育のポテンシャルはすごく高いと思います。端的な例をあげると、旧帝大と呼ばれている大学の場合、大学教員1名に対する学生の数は7名です。ちなみに、おおよそですが、新製の国立大学だと10名、私立大学だと25名です。7名という数は、それくらい手をかけて密度の高い教育をしようとしているという点で、世界の大学と比較して遜色がないと言えるでしょう。密度の高い教育によって、どのような実を結ぼうとしているのかについて、九州大学は高校生や高校の先生方として社会に説明していかなくてはならないだろうと思っているのです。

生徒 あの、話してもいいですか。8番目に綴じてあるレポートに、『大学に進学して、早く、脳と薬剤の関係について研究したいと思うと、興奮さえ覚えます』って書いてあります。私も、いずれ脳の研究をするかもしれないと考えているので、このレポートを書いた人と脳の構造について意見交換ができればいいなと思います。

学生 僕も、研究というか専門を学ぶことを夢に描いていました。でも、大学の授業を受けて、すぐに気づいたことがあります。たとえば、脳のことについても同じだと思うのですが、高校時代に理解したつもりだった知識というのは、世界中の研究者たちが研究していることのなかから、ごく一部をとりあげて、しかも、それを専門的な言葉がなくても分かるように翻訳したものだということです。英語の文章を日本語に翻訳すると意味がずれてくるように、研究で明らかになったことも、アマチュアに伝わる時には、ずれが生じているんだと気づきました。知の最前線についての話など、驚いて感心していたのですが、解明されていることよりも、解明されていないことのほうが、はるかに多いと知って、ショックでした。ショックでしたが、だからこそ、よし、高校まで学習してきたことも、一からきちんと学び直して知の最前線に加わろうという気になりました。受験勉強は研究の基礎づくりとして、とても大切なんですよ。研究者にならなくても、たとえば、世界史の知識があるかないかで、テレビのニュースを観たり新聞記事を読んだりするときに、そこで考える内容が、まるで違ってくると思えます。

生徒 わかるようで、わからないような…。

生徒 今度は、7番目のレポートについてです。『教育を確立させることによって、自らの意見を持つことができ、また、物事に対する視野が広がる』って書いてあります。でも、教育によって知識は多分入ってくると思うのですが、それは教わった知識であって、自分の意見ではなくなるのではないのでしょうか。教育が確立すると、自分を持つのが難しくなるのではないかと思うのですが。

学生 このレポートの文脈からすると、教育体制が整っていない発展途上国で教育が確立する場合について書いてある。日本で育った僕らが考えている教育を、文化や宗教や経済力や何から何まで異なっている国にあてはめるのは無理がある。僕が、気になるというか面白いと思うのは、教育が確立すると自分を持つのが難しくなるのではないかと、高校生が疑問をもっていること。あなたには、小学校、中学校、高校と漬かってきた教育で、自分が何かを植えつけさせられているというイメージがあるのかな。

生徒 やはり、いろいろと、受け継いでいるかなって思います。

学生 僕にも何となくある。受け継いでいるというより、方向づけられているという感じが。

生徒 たとえば、部活に入るとするじゃないですか。そしたら、その部活の雰囲気とか決まり

とか、そういうのを受け継ぎますよね。特色みたいなものを。

学生 学校教育によって、僕らは、どんな影響を受けているのか考えることがある。

学生 中学とか高校では、教え込まれる一方で、教わったことに基づいて、その先を自分で考えるというような課題は、あまりありませんよね。

学生 いや、国語とかで言葉を教えるとか、ものの考え方を教えるだとか、もっとも基本的なところは教わらないと、ものを考えるということすら知らないままになる…。

学生 でも、学校がなかった時代のほうが、はるかに長い。それに、学校がない地域で暮らしている人々が、ものを考えていないかということ、決してそうではない。かえって、五感を使っていて、賢者のように生きている人が大勢いるのかもしれない。考えるというか、思考というのは、問題を解くときにだけ働いているのではないと思う。僕らがこうして考えている進路選択の問題だって、世界中の若者のことを思うと、ひょっとしたら、重箱の隅を突っついているようなものかもしれない。

学生 だいたい、これこそ大事な問題だと思うときには、後から考えると、狭いところに閉じこもってしまっている。五感も思考かと言われると、反論はあるけど、それはまたの機会にして。レポートに戻ると、『教育を確立させることによって、自らの意見を持つことができ、また、物ことに対する視野が広がります』というのは、言葉が独り歩きしているように思います。そんなに、自明のこと、あきらかなことではないのでは。

学生 もし、大学のレポートで、そのように書いたら、「どの本の引用か、出典を明らかにしなさい」というコメントが教師から返ってくるかもしれない。引用でなくて、学生自身が、そう考えるのであれば、「あなたが、そう信じる根拠について述べなさい」とコメントされるかもしれない。それくらい、大学で学ぶときには、由来や根拠を確かめるということ。誤解されては困るのだけど、『教育を確立させる…云々』が、間違っているのではない。と言いながら、高校生を、このレポートを書いた人を傷つけてしまうのではないかと、心配もする。

学生 学生になって思うのですが、これは客観的な事実ですと明らかにするのが、ものすごく難しい。データでものを言いなさいと助言されるけど、そうなると、自分の気持ちや価値観がレポートや研究に盛り込めなくなる。

生徒 でも、自分の考えや意見を研究によって証明するチャンスではありますよね。

学生（一同） うーん（顔を見合わせる）

教諭 ちょっといいですか。一般的に教育というのは、基礎基本として、小学校3・4年ぐらいの読み書きとか計算力を確実に習得させるというのが当然のことですが重要です。問題は、その先で、先ほど生徒さんがとっても良いことを言ったのですが、自ら考え判断することを教えるのも大事な教育なのです。たとえば、発展途上国によくあるように軍事政権が軍事的な教育をやるということがあります。それも一つの教育かもしれないけれど、自分で考えることとか判断することかを教育するのが本来の教育なので、皆さんの議論には、教育の定義の違いから起こる誤解が生じているのではないかと思います。

日本では、新しい教育課程になって、自ら考え判断し行動しましょうと言っているのですが、実際には、それができるのは、今日のテーマにあるように、大学からなのですよね。高校までは、そういうことが必ずしもできていないところから、生徒さんの発言があったのかなというふうに思います。

渡辺 そうですね。そうかもしれませんね。生徒さんの発言が少なくなって、学生同士が意見を述べ合っているのは、どうしてだろうと考えていました。高校まで、教師というのは誤解がないように丁寧に指導しますよね。でも、大学では、私だけではないと思うのですが、誤解というか意見の食い違いが生じたのは「なぜ」というところに注目します。誤解が議論の出発点になるわけで、誤解がないなら議論のしようがないと思えるのです。

学生 私は、高校までは、レポートや発表をほめてもらって、やる気になっていました。ところが大学でプレゼンテーションをすると、入学したばかりの1年次のプレゼンテーションからですが、曖昧なところを突かれるのです。最初の頃は、私はいろいろ考えているけれども表現力がないからだと思っていましたが、私が凄いなあと思った同級生のプレゼンテーションでも、駄目なところを質問されるのです。いろいろ考えているのなら、そのいろいろな考えを述べなさいと言われてわかったのは、本当は、いろいろ考えているのではなかったということです。だから、あるテーマについてのプレゼンテーションの時間が20分あっても、5分で終わってしまうのです。言いたいことは、はっきりしているのですが、そのことについて、いろいろ考えてはいないからです。高校と大学とで、ちがうとすれば、この厳しさだと思います。自分の思考は、何も考えていないにひとしいと思知らされるのです。そう思い知ったとしても、それにめげない力が、不可欠かもしれません。

学生 僕が出遭った大学教師というのは、自分が無知だということを支えにしている人たちかもしれない。だから、研究を続けていけば、そのうち、指導してくれている教師に、追いつけるかもしれないと思えたりする。

▼ **疑問9** フリーターやニートは、進路選択になるか。

▼ **疑問10** どうしたら、本当にやりたいことが見つかるか。

生徒 あの9番目のレポートですけど、『ひとまずフリーターかニートになろうと思っている』と書いてあります。でも、私は、フリーターとニートとは全然違う気がするんですよ。正社員ではないけれどもフリーターは働いて収入を得ていますから、両親とかに養ってもらっているニートとは違うと思うし、さらに不思議だと思うのは、『害虫駆除の仕事が好きだって』書いてあるのに、この仕事で自分を見つめたらいいのに、フリーターかニートを選ぶところで、どうなのかなあと思って。

生徒 フリーターとかニートとかへの社会の目は厳しいのに、あえて、害虫駆除でなく、そちらを選ぶのは、すごいというか面白いなって。

渡辺 この選択には、何か面白い問いがあるかもしれませんね。おせっかいですが、これからの議論が少しでもかみ合うようにするために、フリーターとニートについて説明することにします。ニートというのは、“Not in Employment, Education or Training.”の頭文字をつないでNEET ですから、仕事もしない教育あるいは何らかの訓練も受けない、稼ぎもしない勉強もしないというような人たちのことです。フリーターというのは、アルバイトであっても仕事をしています。フリーターの中には、世間的に確立された職業でないもの、たとえば、ミュージシャンになりたいというような夢を実現するために、生活しなくてはならないのでアルバイトをしているというように、いわば目的のあるフリーターもいます。

学生 小学校のときから、将来の夢について作文を書く。高校では、10年後の自分について作文を書いた。でも、大学生になった今でもそうだけど、世の中にある仕事のどれだけを知っているのかと考えると、知っている仕事の方がはるかに少ない。想像もつかないような仕事があるにちがいない。だから、このレポートは、もしかすると、フリーターなりニートになって、世の中にあるたくさん仕事を、できるだけ見聞きしたうえで、仕事を選択すると。今は害虫駆除だけはとりあえず見えているけど、他は見えてないということを書いてあると思う。

生徒 『その後に、適当に仕事に就きながらやりたいことを見つけたい』って書いてあるから、害虫駆除の仕事は、やりたいことが見つからなかった時の選択じゃないかなと思います。

生徒 想像ですけど、この人は、害虫駆除の仕事を手伝ったりしたことがあって、それなりに経験していて、害虫駆除の仕事なら自分にできると思っている。でも、自分が本当にやりたい仕事かという、そうではない。自分の人生で、本当にしたい仕事というのが、この人にとって大事なんだけど、それがまだ分からない。

生徒 本当にやりたい仕事を、ゆっくりと探したいと思う段階もあって、フリーターかニートのどちらかという進路選択があってもいいと思う。

学生 進路選択のこととして、フリーターかニートのどちらにするかを考えるのは、落とし穴に落ちてしまっているような気がする。高校生の疑問は、本当にやりたい仕事をゆっくり探すことができにくいのは、なぜだろうということのように思える。何も体験していないのに進路を決めなさいと、せきたてられているのではないかと。フリーターやニートは、選択してなろうというものではないと思う。

生徒 フリーターって融通がきくと思います。社員としての責任もそれほど重くないから、何かを探すんだったらフリーターって、いいのかなあと思うんですけど。

学生 僕は、そう思わない。確かに身軽ではあるけど、一見、世界が広がるように見えるけど、全然広くないと思う。責任がない立場で経験することが見えるだけで、自分が主体となるというトレーニングにはなっていないから。責任のない仕事にやりがいを見つけることができるとは思えない。責任がない仕事は「やっごらんない」と、見守られているとか、ある意味で、保護されているわけで、責任者に褒めてもらえるようにがんばっても…どうかなあ。

生徒 高校の3年間では、やりたいことが見つからないから、フリーターになって、やりたいことを見つけようという気持ちではないでしょうか。

学生 やりたいことを見つけようと思うなら、大学進学を選択すればいい。もし、僕が相談を受けたら、そう言います。この人は、半分ニートで半分フリーターがやりたいんでしょう。親の背中に乗かって、でも、アルバイトをしていますよというポーズが欲しいだけでしょ。自立したいと思っているのではなくて。

学生 高校生は、バイトの実態っていうか、フリーターの実態をあんまりよく知らないってこともありますよね。

学生 フリーターの実態をこの人は知らなくてもいい。実際に、フリーターになろうと思っていないのだから。僕は気が短いから、こんな言い方をするのだけど。

生徒 もっと自分のやりたいことを見つけられたらいいと思うっていうことで、そういう可能性が大きいっていうところで、フリーターで仕事を体験することで、可能性が広がること

があると思います。

学生 可能性という言葉がポイントだと思うのです。4番目のレポートにも、5番目のレポートにも可能性を求めてと書いてあります。どのレポートだか、九州大学の21世紀プログラムを志望している人もいて、いろんなことを学び、いろんな人の考えを聞いて、選択の幅を広げていきたいと書いてあります。可能性を広げることは良さそうに思えるのですが、それは進路を選択していないのではないかということです。可能性を絞ることが進路選択なのではないかと思うのです。

生徒 進路を選択すると可能性は狭まるけど、それになれる可能性っていうのが大きくなるってことですよ。能力がついてくるとか、近づいてくるとか。

生徒 自分の可能性を探したいというのは、イコール、まだ自分の知らないものを知るっていう方向にまだあると思うので、可能性を広げるというのは、情報を集めるという感じがするんですよ。

生徒 人生全体における進路選択は、まだできていないんだけど、高校生としての進路選択としては、それを選んでるんだと思います。

渡辺 聞いていて、いろんなことが頭の中をめぐるのですが、可能性を広げるとか狭めるとかという話について一言だけ。何か1つのことを選択したら、そこに固定されて自由度を失うように思っているのではないかと、僕には受けとれるのですが、どうですか。

僕は、そうではないのではないかと考えているのです。というのは、とりあえずであっても、何か1つを選択して取りくむと、仕事であっても大学での学びであっても、制約のあるなかで工夫をすることになりますから、力量が着実についてきます。だから、可能性は広がると思えるのです。大学進学は、ある学部・学科を選択するわけですが、どの学部・学科に入学したとしても、あれはだめ、これもだめと、いろいろなことが禁止されているわけではありません。的を絞ることの意義については、学生さんには実感として伝わるのでしょうか、高校生の皆さんに、どう説明したらいいのかな。

生徒 ある仕事に決めてもいろいろできるということですが、それは、日本だったら難しいことだと思うんですけど。聞いた話になるんですけど、たとえば、外国だったら、自分にふさわしい所があったら好きに移動することも普通のこととして捉えられているんですけど、日本だと、1箇所を選ばなきゃいけないっていう固定観念みたいなものがあるんじゃないですか。

学生 日本を相手にして自分の進路選択を悩んでもしかたないと思う。あなた自身がどうするかですよ。それから、これも、高校生の頃には気づかなかったのですが、先生であっても友人であっても、誰かの話を聞くときには、自分の考えや意見を「それでいい」と認めてくれるような部分だけを聞きとっているのですよね。自分の考えに反する話を「なるほどなあ」と聞くのはとても難しいのだけど、研究というのは、自分の考えていることが、いかに大雑把で偏っているかを、きちんと知らないと先に進めないということがある。

教諭 高校生にしてみると、社会がどのように評価するかは、とても重要なことなんですよ。最近では、社会の評価が変わって、フリーターは、ものすごく不利なんです。フリーターは職歴にならないし、生業に就けなかった人物だと見なされるので、1年間ぐらいフリーターをやると、ほとんどが正業に就けなくなる。しかし、それをリセットする方法が一つだけあります。それは学校に行きなおすという方法なのです。

学生 僕は、フリーターもニートもやっています。中学校に1年間ほど通った後、不登校を3年間やって、通信制高校に2年間通って、ニートを5ヶ月ぐらいやって、フリーターを2年ぐらいやって、契約社員を7ヶ月ぐらいやって、予備校に1年間通って、それから九大に入学しました。そうやってリセットしてきました。学部を8年かけて卒業して、大学院に進学している学生もいるし、他の大学を卒業した後、なぜか九州大学に入って1年からやり直した学生もいます。そういう学生が、例外かという、そうは思えないのです。例外でなく、その他の大勢の学生を代表しているように思えるのです。大学は、研究だけでなく、どうやって生きていくかのリセットを繰り返すことができる場所かもしれません。

教諭 私も、何か1つのことをやってみるといことは、世界を狭めることではないと思っています。むしろ、広がると思う。なぜかという、フリーターを1年やった子に対して社会は非常に冷たいのですが、フリーターをやった子の7割は正業に就きたいと思っています。ところが、こんな子もいました。ある大学の経済学部に進学して、一般企業に就職をしました。でも、自分に合わないということで、1年そこらで辞めている。その子は何がしたかったかっていうと、もう一度自分を見つめ直すと、保育士になりたいとなりました。保育士の資格を取って、ある公立の保育所に採用となりました。採用した保育所は、その子が大学で学び社会人を経験しているという、その子の深みのようなものを評価した。短大の幼児教育科を卒業して最短で保育士になる者とは違う何かを評価したのだと思います。だから、人生経験を積みあげていくことに対するプラスの評価は、今の日本の社会には結構あるという気がします。ただし、フリーターにはものすごく冷たいです。そういう極端なところがあります。

生徒 なんでそう、フリーターの評価って低いんですか。私もしばらくフリーターをやったことがあるのですが、そのときに、バイトできている大学生よりも、明らかに仕事の点では私の方ができるのに、あんたはフリーター、あんたは学生だからって、評価的には学生の方が上だったりしました。だから、仕事ができる人が欲しいって言うわりには、仕事ができる人よりも学校で仕事とは全然関係がない勉強をしてる人の方が評価が高い。何でそうなのって思ったんですけど、どうしてなのでしょうね。

生徒 やっぱそれは、大学を出た人が偉いっていう昔の考えがずっと伝わってるんじゃないですかね。昔っていうか、昭和ぐらいだと思うんですけど、大学行けたのは少数の人達で、その大学行けた人達は本当に社会の中心というか、役に立っていたと思うんですよ。指導者みたいなものになって。だからだと思います。

生徒 でも、大学を卒業したからといって、やっぱりできない人はできないし、要領が悪い人は悪いし、勉強をしなくても要領が良い人は要領良くやると、皆が知っているじゃないですか。中卒でも店長になって、大卒と比較して、どっちができるかっていうと、さして変わりはないということが、現実にあるじゃないですか。だけど、学歴がどうこうと言っているのが、すごく不思議。

学生 企業とかお店は、人物の評価に学校を利用してるのではないかって考えることがある。面接したら人物評価がきちんとできるかという、そんなことはない。だから、どんな大学や学校を卒業したか、どんな大学や学校に在学してるか、あるいは在学をやめているかという区別を利用して人物を評価する。これは、誰かが勘のようなもので評価するより、安定した結果がえられるように思う。

学校って何かの枠組みに所属できているということは、受験勉強のような大学に所属するための努力もふくめて、順応力があると見なされる。学生、つまり大学という学校に在学している者が優遇されるということがあるのは、すごく嫌な言葉だけど、会社への忠誠度が、そのことによって大まかに測ることができる。僕は、いろいろあったけど、学生として九大に所属するまでの努力を自負している。歯をくいしばった努力ではないかもしれないけど、バイト先で何があっても、どう評価されても、それはそれとして乗り越えられるだけの何かは身につけていると思っている。これが、自負。つまり、学歴は今でも結構有効だっていうのが現実としてあると思う。だから、学歴を否定してばかりいるのは、どうかなと思う。

九大の学生だからといって、評価が高いわけではない。バイト先で、就職してもそうだと思うけど、うまく仕事をこなしても「九大生だから、あたりまえ」で評価が高くなるわけではないし、失敗しようものなら「九大生なのに…」とか「よくそれで九大生と言えるね」なんて馬鹿にされたりする。努力や頑張りって測りようがない。

学生 でも測るでしょう。入学試験がそうでしょう。受験学力だけが人間の価値ではないと言いながら、そこに引っ張られている。偏見が実際に生じるってことだよ。研究のように、ある約束のもとで、客観的に物事をみましようとなっているときとちがって、こういう体験論のような話になるときに、いつも思うことがある。自分の価値観から世界を見るから、誰かが間違っている、誰かが正しいと思う。僕は自分のことを天邪鬼だと思っているけど、でも、学生生活を振り返ってみると、結構、長いものに巻かれてきている。ただ、長いものに巻かれながらも、巻かれている自分に気づくことが大切だと思う。

まあ、同じ価値観を共有できる者のほうが安心であるのは確か。大学だけでなく高校のときからの友人も含めて、同じ価値観の者同士で、新たに何かを得たかということ、そうは言えないような気がする。

生徒 学歴偏重は、おかしいなって、疑問をもたないのですか。

学生 疑問はもつ。だけど、学歴に疑問をもって、いろいろ考えていくと、自分が学歴に疑問をもつのは、どうしてだろうという疑問にたどりつく。僕自身が、九大の学生ですって、学歴を活用しているときもある。そういう僕が、学歴に疑問をもつのは、どんなときだろうかと振り返ると…。ここから先は言いたくない。なぜかということ「自分に自信をもつことが大切です」というような…説教みたいになるから。

生徒 あ、それはわかる気がします。

生徒 じゃあ、自分が社会に合わせるってことですか。

学生 そういうことです。だって、社会に向かって「僕に合わせてください」なんて言えないでしょう。努力という言い方も気に入らないのだけど、独裁政権下で生活しているわけではないから、ある程度、いやかなりの程度の選択の自由はある。自分がもっている選択の自由に気づくと、それほど大変な社会に生きているわけではない。あなたは、進路選択の自由、どんな職業に就くかを自分で選択する自由をもっているじゃないですか。進路を選択するときに学歴を問題にしないあなたは、やがて、誰を採用するかを判断する立場になったとき、おそらく学歴で人を評価しないでしょ。そういう人が増えると、社会の学歴観が変わるかもしれない。

でも、学生として、かなり大勢の人々に出会ったと思っているのだけど、学歴で人を評

価値しないと、今、思っているあなたが、そうではなくなる可能性も充分あるということを知った。先回りしますけど、「いいえ、将来も私は学歴によって人を評価しません」と言い切るのは、つきつめていくと感情論だと考える。あまりにもはっきりした判断は信念であって、科学的に検証されているわけではない。信念は、研究する態度とか、大学で学ぶこととは相容れない。と、僕は考えてしまう。大学で学ぶというのは、自分の正しさを証明するのとはちがう。

どう喻えたらいいかなあ。たとえば、政治家の主義主張は、はっきりしていないと、僕らは投票のしようがない。でも、大学では自分がどの政治家に投票するかというのとは別に、なぜ、その政治家がそういう主義主張をするようになったのかを考える。環境問題だと、なぜ二酸化炭素が温暖化を促進しているのかを考えるし、本当に二酸化炭素が温暖化の原因だと言い切れるのかどうかを考える。どんな主義主張をするかは、個人のことであって、研究や学問は主義主張とはちがうのだと気づくようになった。

学生 そうだけど、それは九大の学生になってみて、ようやくわかる。ただし、思考力というか、考える力は高校生と大学生とで、そして大学教師とでちがうわけではない。だから、こうして、年齢のちがう者が集まって議論することができる。ちがうのは、考える材料となる知識がちがう。知識が多いか少ないかでなく、僕の場合は、高校生のときと比べて、九大で学ぶうちに、知識の集め方がちがってきている。高校生のときは、正しいか間違いかとか、良いか悪いかの判断が先にあって、本で読んだ知識のなかで、自分の考えを肯定する知識を正しい知識と見なしていた。

生徒 でも、知識が、正しいか間違っているかを判断しないと、大学で研究なさっていることが、社会貢献につながらないのではないのでしょうか。

生徒 実は、私は、そんなつもりでレポートを書いたのではないのに、かってに解釈されているという気がしています。研究するには不思議や疑問が大切だということですが、疑問を出し合って議論しても、書いた本人の気持ちとちがうことを議論しては、意味がないように思うのです。

学生 そうそう。よく言ってくれました。高校生のとき、どうしてこんな受験勉強をしなくてはならないのだろうとっていた僕と、それなりに学んできたつもりとしての僕のちがいは何だろうと考えていたのだけど、そのちがいを、あなたが的確に言い表してくれたと思う。ちょっと話がそれるかもしれないけど、聞いてほしい。

たとえば、先ほどの温暖化と二酸化炭素の話に戻るけど、二酸化炭素の排出量を減らすために、どうしようとしているのだろうと疑問をもつと、京都議定書を読んでみる。僕は、高校のときまでは、そうか二酸化炭素が問題なんだ…と、そこでおしまいだった。読んでみると、日本はガソリンの消費を減らすために、バイオエタノール燃料を年間…何万キロリットルだったか忘れたけど、バイオエタノールをつくる計画を立てている。そんなことは、京都議定書を読むまで知らなかった。これは、少しばかり知識っぽい。でも、テレビや新聞でえられるのは皆が共有する情報であって知識じゃないから、実際に京都議定書を読んで知識をえながら生じるような疑問は生じない。人から聞く話も情報のようなもので、自分で調べないと思考の材料になるような知識はえられない。

で、バイオエタノール燃料って何なのだろうと調べると、これはトウモロコシや小麦やサトウキビなどから作られる。えっと、また疑問が生じる。では、日本はどこからトウモ

ロコシを輸入するのだらうって。トウモロコシを食料にしている人口もかなりいるし、トウモロコシは飼料としてもそうとう生産されているはずだし、どこかの国の森林が、トウモロコシ畑になるのだらうかと、これもまた疑問。それに、バイオエタノール燃料で車が走るようになったら石油産業はどうなるのだらうと、これもまた疑問。これらの疑問というか、問題を一つずつ解決していくには、企業の研究もそうだらうけど、大学で研究していることが貢献する。

高校生の頃は、疑問という間違いを指摘することだと思っていたけど、そうではなくて、疑問をもたないと、社会的に意義のある問題を見つけることができない。

生徒 そういう専門的なことを考えられるようになるために、大学で学ぶ必要があるということでしょうか。

学生 僕は、何も専門的なことを話しているわけではない。大学に入学したばかりの頃は、授業で自分が知らないことがでてくると、専門的なことは難しいと思っていたような気もする。それは、まだ二次関数までしか習っていないのに、いきなり微分方程式が出てきたように感じていたからだけど、京都議定書が読めないわけではないでしょう。

生徒 私は、文系だから理系の話は、とても難しいと感じる。

学生 そういう受けとめ方も、不思議なことに思える。なぜ、バイオエタノール燃料は理系の知識だと思ってしまうのか疑問。原料のトウモロコシの輸出入の話になると、これは経済のことでしょう。日本で減反政策によって空いている土地にトウモロコシやサトウキビを植えようとなったら、農村は変化するかもしれない。となると、社会学の話かな。入試問題には、文系・理系があるかもしれないけど、知識に文系も理系もない。

生徒 それは、そうだらうと思うのですが、私が言いたかったのは、私が書いたレポートが、私の考えとちがうというか、私の考えを無視して議論が行われているということです。

学生 そうでした。この模擬ゼミが、レポートを書いた本人に質問せずに、読んだ者の疑問について議論しましょうとなっているのは、渡辺先生の高校生の皆さんに対する思いやりだと、私は思うのです。私は、入学して最初の学期に、渡辺先生の少人数ゼミを履修したのですが、プレゼンテーションをすると、「そのデータから、どうしてそんなことが言えるの」と尋ねられるのです。渡辺先生だけでなく、他の学生からも。そうすると、私の思考がいかにも曖昧で、思い込みというか先入見に満ちていたことを痛いほど知らされるわけです。渡辺先生は、私が傷つかないように気遣って言葉を選んでくださるのですが、やはり傷つくわけです。だから、あえて、あなたの考えを無視して議論しましょうということになっているのだと思います。大学では、九州大学では、そういうトレーニングを受けるので、先ほどあったように、京都議定書を読んで、どんな計画が立てられているのかを調べようとするし、調べているうちに、いくつもの疑問がでてくるようになるのだと思います。これも不思議なことなのですが、出てきた疑問を集めてみると、なぜか自分が専攻する領域とのつながりが見えてきたりするのですよね。

生徒 よくわからないけど、そうなのかもしれないと、ぼんやりとですが、わかったような気もします。

学生 よくわからないけど、わかったような気もするという、その間で、研究を私は楽しんでいるのかもしれませんが。大学の先生というのは、未知の領域のことを研究しているのだらうと思うので、想像ですが、よくわかったこと、つまり、わかりきったことについて話す

と、「だから何なの」という顔をなさる先生が、結構います。これには、なかなか慣れることができないのですが、学生としては、辛いなあと思うことも時々あります。

▼ **疑問 11 大学の先生は、社会性がないって本当なのか。**

▼ **疑問 12 想像力が大切だとは、どういうことか。**

生徒 学生の、そういう辛さがわからないのは、大学の先生には、よく言われるように、社会性がないからでしょうか。

学生 大学は、社会性がなくても生きていけるかもしれない。

学生 職業によっては社会性が皆無でも生きていけますよね。

渡辺 それは、お二人が経験している九州大学の学部・学科には、社会性のない人の居場所があるということを言っているような気がするのですが。

学生 僕はもちろん大学の先生ではないけど、社会に向かって、「これが正しい、それは間違いだ」などと言えるほど、僕には誰にも負けない何かがあると思っていないから、社会性があるとは言えないなあという思いがある。これは学生として苦勞したからだと思うけど、社会に貢献しますとは、なかなか言えない。ある大学の卒業式で、テレビのインタビューに応じて、「国民のために、がんばります」と卒業生たちが言っているのをみると、「おい、おい、お前たち、大学で、どんなことを学んだのだ」と言いたくなる。

生徒 私が尋ねたかったのは、学問とか研究とかに一生懸命だと、人の気持ちがわからなくなるのではないのでしょうか…と、ということです。

学生 大学の先生を弁護する義務はないのだけど、勉強ばかりしていると人間としていかなものだろうかという世間的な認識は、ほとんど根拠がないと思う。むしろ、受験勉強に精を出して、いい成績をとっている高校生のなかに、かなりの数で、勉強ができるイコール性格的にどこか欠けているところがあるという偏見のようなものに悩まされている人がいると思う。大学の先生も同じで、どこかで、九大の学生は失敗すると、「九大生なのに」と言われるという話があったけど、大学の先生も、世の中のことについては、知っていることより知らないことのほうが多くて、それは誰でもそうなのに、「大学の先生なのに」と言われているように思う。大学の先生は、人の気持ちがわからないかと尋ねられるなら、誰でもがそうであるように、わかったり、わからなかつたりする…と、言えるのかな。

学生 そういえば、思い出すことがあります。つい、この間のことなのに、すごくなつかしい気もするのですが、入学したばかりの頃は、大学の先生は高校の先生よりも偉いと思っていましたね。でも、私が、数学が面白いと思えるきっかけをつくってくださった高校の先生も、今、指導をしてくださっている大学の先生も、私にとっては同じように偉いというか、とても大きな存在です。

学生 高校のとき、相性の悪い先生がいたように、大学にも相性の悪い先生がいる。

渡辺 学生同士で相槌をうっていても、どうかと思いますので、高校生のどなたか、他の話題はありませんか。

生徒 私は、これを読んで、すごくユニークだなと感心しました。リンゴがあつて、誰かがそれを好きだと思って歌を作って、その歌を聞いた誰かが逆上がりをする。で、それを見た誰かがインスピレーションを受けて、パンを焼くかもしれない。パンを焼いた人には、逆

上がりのきっかけとなったリンゴの歌は伝わっていないのですが、パンとリンゴがつながっている。そういうつながり方に興味があるって書いてあります。こんなことを書く人は、ユニークな人だろうと思うのです。

生徒 哲学的ですよ。

学生 哲学的と言ってしまっただけは、いかななものかと。ごめんなさいね、すぐ、こんな言い方をしてしまって。教養教育科目で履修した哲学の授業のことを思い出します。哲学は、ほんの一例ですが、それまで抱いていた哲学のイメージが、まだ哲学ではなかったと気づくのも大学の授業なのですよ。

私が知りたいのは、あなたは、このレポートのどんなところを、哲学的と思ったのだろうということ。何となくなら、何となくで、いいですよ。

生徒 はい。私が哲学的だと感じたのは、その後が、どうなるか、わからないけれど、最初のリンゴになりたいという気持ちが書かれているということです。哲学的というより、詩のようなレポートだと思います。最初のリンゴというのは、神様にもあてはまるとは思いませんか。

生徒 でも、始めであれば、何でもいいんじゃないですか。リンゴは、たとえ話かもしれない。最初の発信者になるのだったら、リンゴを絵にしなくてもいい。

生徒 これって、人が進路を選択するときのかたちじゃないかなって思ったんですよ。読んだ時に。誰でも、人に感銘を受けて、じゃ、自分はこういうことで、次に伝えようっていうことがあると思うんです。でも、多くの人達って、そうじゃないじゃないですか。受けた感銘を次につなげようとするんじゃないで、感銘を受けた、はい、終了、みたいな。そういう大人が多いから、今の子ども達は、次に何をしたいかが分からない。親に、公務員は安定してるからって言われたら、じゃ、僕は公務員になるよ、で終わって…。

学生 世間的な基準とか、親の判断とか欲目とか、そういうものがなかったら、進路選択は、感動がきっかけになるってこと。

教諭 夢って基本ですよ。鳥のように飛びたいって思って、ライト兄弟がああいうふう空を飛ぶ乗り物を作って、と。鉄腕アトム見て、ロボットを作りたい、そして、人間型ロボットを作りたいと思っていると、大学のロボット・コンテストのドキュメンタリー番組を見て、よし大学に入ってロボットを作ろうとなったりします。何かからインスピレーションを受けて、感動して、じゃあこういうものを作ってみたいと。そういうような、最初の単純な率直な感動が進路選択において、一番大切じゃないのかなあ。

学生 皆さんのなかで、将来は安定した職業に就きたいなあって思っている人ってどのくらいいますか。…そうですね…。安定は大事ですよ。

生徒 私が安定した職に就いてなくても、結婚相手が、安定した職に就いていたらいいかなあ、と、女的な考えはありますね。

学生 収入は不安定でも、その不安定さを凌駕するくらいの面白さがあるなら、それに喰らいつくんだよね。でも、なかなかそういうことって見つからない。見つからないから、探している。進路選択で悩んでいるときは、これこそというのが見つかると思ってるのではないかな。だから、もうこの辺であきらめようとならない。

学生 さきほど、進路選択では感動が大切だと言われましたが、感動とは縁遠くなって生きていく親からは、夢みたくなことを考える前に、ちゃんとした大学に入って、ちゃんとした

職業に就きなさいと言われていたような気がします。「ちゃんとした」が、何を意味しているのかは、親も「ちゃんと」考えてはいないのではないのでしょうか。悩んではいるのですが、考えてはいないように思えます。

受験勉強に精を出していると、感動どころではなくなりますよね。やれやれという感じ。それは、研究をしても同じで、何はともあれ、この問題をなんとかしなくてはならないとか、一週間以内にレポートをしあげなくてはならないとか。それが、現実です。研究は、やれやれと大変だけど、そこから離れようとは思わない充実感のようなものを体験します。ひとつひとつは感動とは言えない充実感ですが、うまく解決できないことのほうが多いとしても、深く考えることに伴う充実感が積み重なるうちに、「おっ、これだ」というものに出遭うときの達成感は、自らの財産になるのだと思います。

議論要約の文責：長野剛（九州大学高等教育開発推進センター）